



株式会社IBUKI (河北町)

所在地：西村山郡河北町谷地字真木160-2  
 代表取締役：松本 晋一  
 TEL：0237-72-7121  
 URL：http://ibki-inc.com

## 株式会社IBUKI(河北町) デザインや機能性に優れた加飾加工が強み 「金型業界の風雲児」を目指し、 新たな営業展開を促進する

### 創業80年を超える老舗企業 金型業界の発展に尽力

河北町に本社を構える株式会社IBUKIの前身は、昭和8年に安田角太郎氏が東京都品川区大崎で個人創業した後、昭和31年に設立した安田木型製作所。昭和36年には安田製作所に改名し、金型部門を新設。以来、プラスチック射出成形用金型の設計・製造・販売や樹脂成形品の試作、特殊加工の研究開発を行ってきた。平成24年にすでに工場を構えていた河北町に本社を移転し、平成26年には製造業向けコンサルティングを行うO2グループ傘下に入る。その翌年、現社名に改名した。

経営理念には、『感動技術』、『顧客第一・社員第一』、『金型業界の風雲児』、そして『山形の伝道師』の4項目をあげている。長年培ってきた技術力を基に変革と挑戦を続け、金型業界の発展のため邁進し、仕事を通じて県外や国外に向けて山形をアピールする。『現在は、山形と富山、東京都品川の3拠点を構えています。当社は、昔からさまざまなものを金型で作ってきましたが、一番の強みは加飾技術です』と話すのは開発グループの

芳賀剛さん。加飾とは、金型に柄を直接加工することで、成形後の二次加工もすることなくそのまま製品に柄が転写される技術。藤や竹の繊維を織り込んだかのような櫛垣模様や、金属調の質感のある模様などが表現できる。

### 加飾加工による付加価値の創出 大手メーカーへの営業展開

「O2グループの傘下に入った際に、社長から当社の強みを聞かれましたが『短納期ができる』とか、ありきたりなことしか答えることができませんでした。しかし顧客からは『安田当時の社名の強みは加飾』と聞きました。あたり前のように手がけてきた加飾技術が当社の強みだと気づかされ、『高級感の演出』や『トータルコストの削減』といった加飾のメリットを全面に打ち出して営業展開していくことになりました」と話す。一般的に金型メーカーは成形メーカーと取引して金型を納め、成形メーカーで金型を使った製品を製造し、大手自動車メーカーや電機メーカーに納品する。そこで、加飾技術を強みに当初は、IBUKIとして成形メーカーに売り込みを



▲車の計器盤周りにも使われるIBUKIの加飾技術。ただの樹脂では表現できない、高級感を演出する。



▲「樹脂を使ったガラスを超えるピアグラス」の製造にも着手。クラウドファンディングも行い注目度が高い。



▲工場内は「成形」「加工」「組立」の3エリアに分かれる。加飾にも使われるマシニングセンタは7台保有。

かけていたが、「コスト面の話にしかならず、付加価値の売り込みが難しいと判断し、直接、自動車メーカーや電機メーカーなどへ営業展開を試みたという。『もともと、安田製作所時代からソニーさんと直接取引がありました。そこで加飾についてもいろいろと鍛えていた。いた経緯もあり、当社の加飾技術を活用する取引がスタートできました』と芳賀さん。その後は、自動車メーカーとも取引がスタート。何度も試作品を提供し、検討を重ね、量産モデルに採用されるまでには約3年がかかったという。こうした加飾技術を付加価値に加えていく新たな取り組みに対し、平成30年には第7回ものづくり日本大賞で「樹脂成形ノウハウを活かした中小金型メーカーのビジネスモデル刷新と収益構造の変革」のテーマで経済産業大臣賞を受賞。また、同年5月23日に「加飾加工技術を用いた自動車産業向け新たな営業展開」で経営革新計画の承認を受けている。「高級感を演出するデザイン系の加飾のほかに、加飾を施すことにより水を弾くような撥水性や、逆に水を留める親水性をもたせる機能系の加飾加工にも取り組んでいます」と話す。

### 新時代の金型メーカーに。 最新技術も取り入れ効率化を図る

社内ではAIやIoTの導入も進む。「例えば、金型に加飾加工を施す際に使用するマシニングセンタに装着する刃物ですが、これまではベテランの従業員が

一つ一つチェックしていました。しかし、その従業員がいなければ仕事が回らなくなります。そこで、O2グループと協力して刃物のチェックができるシステムを作り上げました」と話す。また、営業グループの渡辺芳照さんは「出勤時に自己診断による体調チェックを実施しています。ビッグデータが溜まったら、工場の生産性と紐付けする予定です。『IoTを導入します』と言っても、高齢の方もいますので多くの従業員は実感がわきません。そこで、今している行動がAIやIoTに繋がっているということを知り、身近に感じてもらうことが狙いです。月1回行っている5S活動や材料の在庫管理もシステムを活用していますし、従業員の技術を写真や動画、テキストでまとめクラウドで情報共有するなど、さまざまな取り組みを実施しております。また、それらのシステムは他社向けに販売も進めています」と話す。ハード面を整えていくと同時に、従業員の理解も図り、丁寧な導入を進めている。

平成30年には、グループ企業でAI事業を進めている株式会社LIGHTZとともに、ドイツで行われた世界最大の産業技術展示会「ハノーバーメッセ」にも出展。そのほか、メーカーの研修などによる会社見学や体験なども積極的に受け入れるなどIBUKIの技術力を国内外にアピールしている。培ってきた加飾技術に、最新のAIやIoT技術を加え、従来の金型メーカーのイメージを一新するべく躍進はまだまだ続く。



▲開発グループの芳賀剛さん(左)と営業グループの渡辺芳照さん(右)。現在は役職をなくし、組織をフラット化している。



▲名札についたバーコードで出勤や外出状況をはじめ、社有車や会議室、共用備品などの予約も管理する。



▲刃物の状態を確認する装置。ベテラン従業員の思考を組み込み解析する。仕事を重ねるほどに学習し精度が上がる。



▲葉脈や木目を3Dスキャンでデータ化し自然界の模様を表現するなど、さまざまなデザインを実現できる加飾加工。

### 経営革新計画承認企業